

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570614313		
法人名	株式会社 うめの木園		
事業所名	グループホーム うめの木園		
所在地	秋田県男鹿市五里合箱井字町屋田4-3		
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成30年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がリビングで自然体でゆっくり過ごせるような環境に心がけ、家庭的な雰囲気で生活し、一人ひとりの思いを受け止めたケアを心がけています。地元の中学3年生が7月中旬の2日間行い、ホームにて体験学習を行い、ホーム職員と運動会を企画・運営したり、認知症カフェを開催したりして、認知症ケア拠点となるよう地域との交流にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに入ると利用者や職員の明るく、活気のある会話が飛び込んできて家族的な雰囲気が感じられます。職場体験の中学生や地域の方々と一緒に活動を楽しんだり、利用者のやりたいことを聞き取ってそれぞれの楽しみごとを大切にホームでの生活の幅の拡充に努めており、地域の中に自然に溶け込み、利用者へのより良い支援を目指すホームづくりは管理者がリーダーシップをとり、着実に職員に浸透しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、リビング、事務所の目につく場所へ掲示し理念の共有を図っている。理念については4月に園内研修で学び、理念に添ったケアができるよう日々努めている	理念実現のために職員がそれぞれの思いを記入して意識付けを図り、実践に繋がっています。かしまった話し方を避け、笑顔で接することを心がけて自分らしく暮らせるホームづくりを目指しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区祭典の子ども会のみこし来園、年末にはなまはげ行事、地域のセルフケア講座への参加等、積極的に受け入れている。その他中学生のボランティアの受け入れも行っている	地区の催しには利用者を誘って出かけ、ホームの行事には中学生や町内の方の協力が得られ、毎回地域の方々も参加して、利用者が地域と繋がりが持てるよう積極的に取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症カフェを通して認知症の理解や予防、地域住民の抱えこんでいる困り事等行政や専門職へつなげている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。運営推進会議録を職員へ回覧して周知し、改善に活かしている。また玄関前に公表している	行政、町内会の他さまざまな職種の方の参加を得て多くの意見を出していただき、サービスの向上に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接窓口へ行き相談、報告するよう努めている。また困難な利用者がいれば地域包括支援センターへ出向き相談、アドバイスを頂き、連絡を密にしている	市の健康講座への参加や認知症カフェの開催、利用者の対応についての相談等、連携しながら利用者の支援に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化委員会を設置し、定期的に会議を開催している。身体拘束の園内研修を実施し、身体拘束をしないケアに努めている	研修で日頃のケアを振り返り、例えばスピーチロックについてもどのような言葉が拘束に繋がるか等を話し合い、不適切なケアをしないよう取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について園内研修を実施し、虐待防止の徹底に努めている。また不適切ケアについても研修している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修の中で計画、実施し、職員全体で理解し、活用出来るよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく解約時にも、利用者が心配や不安にならないよう十分に協議し、理解を得られるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に意見書を設けている他、苦情のポスターも掲示し、苦情の受付をして対応している	利用者からは日常生活の中で聞き取り、家族からは面会時等に話を聞いています。意見や要望に応じて改善に繋げる等、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議には出来るだけ経営者も参加して意見を聞いている。また必要に応じて職員とのヒヤリング等も行っている	日常的に意見が言いやすい環境であり、職員の意見は管理者を通じて代表に伝えられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生はもちろん、勤務実態に合わせた資格取得や園外研修の参加を促している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内外の研修を計画的に行っている。園内研修は毎月行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	男鹿・潟上・南秋グループホーム連絡協議会主催の介護員、管理者、経営者の研修への参加やグループ内の管理者研修も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接のアセスメントだけでなく、施設見学や入居当日等コミュニケーションをとりながら受け止めるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接のアセスメントだけでなく、施設見学や入居当日等コミュニケーションをとりながら受け止めるように努めている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る限り共同で物事を行うようケアし、その中でお互い学んだり共感しながら生活している		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ利用者の状況、状態報告を随時行っている。トラブル等発生したら家族に協力をお願いして協議している		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者から申し出があった時には電話等の交流があり、機会があれば出かけるように努めている。また知人や友人、親戚が面会に来てくれ交流を楽しんでいる	帰宅やお墓参りを家族と一緒にしており、遠方に住む家族も関係が途切れないように協力してくれています。知人と会えることもあり、地区の催しには積極的に出かけています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ他者と関わりが持てるようにアクティビティ等工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に合わせた対応に努めている。退去後 もご家族から相談を受けたり、入院先の相談員と連絡を取ったりして面談している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で聞き取られた情報を担当者だけでなく、職員全体で把握出来るよう申し送りをおこない、カンファレンス等でも話し合いがなされている。思いをくみ取りケアに活かしている	利用者から希望を聞き取り、本人の力を活かした暮らし方や好きなことをホームでの生活に反映できるよう検討しています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントだけでなく、入居後も利用者とのコミュニケーションをとり、把握に努めている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況を日々把握して、その日の状況に応じた対応に努めている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者、担当者だけでなく出来るだけ多くの職員が計画作成に参加出来るよう会議を行っている。また家族、利用者の要望や思いを受け止めて意向をまとめ、ケアに反映させるよう計画作成に努めている	担当職員のモニタリング後、ユニット会議で全職員が意見を出し合い、利用者、家族の要望を取り入れた介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録だけでなく、利用者の変化等については支援経過記録や日誌等に記録して申し送りをし、周知してケアに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用に関心があり、必要に応じて協力を要請している (ボランティア、消防、警察、民生委員、医療機関等)		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。協力医の選択をお願いしているが、協力医を選択しない場合でも要望に合わせた対応をしている	個々の利用者の希望に沿って支援しています。家族が受診介助する場合は家族を介して利用者の日々の状況を報告しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携しており、訪問の際に情報や気づきを伝え、週1回相談、アドバイス、指示をもらい適切な受診、看護が受けられるように努めている。夜間対応もしている		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院機関と協力医の連携の中で施設での治療が可能な場合には、早期の退院に努めている。病院の相談員と連携をとり、相談、情報交換している		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時や終末期にはその都度ご家族と話し合い、場合によっては話し合いの場を設け医師より説明を受けている。看取りについても勉強会を実施している	利用者のかかりつけ医によっては終末期の対応が可能な医師がおり、体制は整っていますが、家族と話し合い、希望に沿った対応が行われています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や異常時の園内研修を受け実施して実践力が身に付くように努めている。男鹿市防災リーダー認定講習会へ参加し、応急手当等について学び実践力を身に付けている		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練及び初期消火の訓練を地域住民と共に実施している。消防署員による出前講習にて「地震」「津波」「豪雨・台風」「自主防災」についての勉強会も行っている	訓練には近隣の理解と協力が得られており、避難場所の確認もしています。ホーム周辺の用水路については現状では危険がないということですが、更なる改善を市に要請しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、プライバシーについての園内研修を実施、職員の意識向上に努めている	利用者の生活歴に配慮し、その人に合った対応をしています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が何でも話せる雰囲気を心がけケアに努めている為、個々の思いを積極的に職員へ伝えられている。アンケートを実施し、それを活かしている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日課に添った対応をするだけでなく、利用者の状況、職員の体制、気候等も考慮して利用者の意思確認をしながらケアしている		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別にケア等を行っている。移動美容院、理容でお店に出かけたのと同じ様にカット、パーマ、毛染め、散髪、顔そり等を行っている		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立によっては下ごしらえから利用者に協力していただき、一緒に会話しながら楽しく食事している。配膳、下膳、食器拭き等も当番制で行ってくれている	職員と一緒に賑やかに食事の準備をしている光景がみられました。普段からできることを手伝っていただき、楽しく食事ができる雰囲気づくりをしています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同系列の栄養士より献立を見ていただき、指導を受けている。食事量の不足な利用者には代替え食を提供している		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けと就寝前の入れ歯洗浄を行っている。介助が必要な利用者には介助で支援している。4月には歯科医より勉強会を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄できる様ケアしている。尿意の訴えない利用者でも日中、夜間トイレ誘導のケアを行い、オムツ使用は最小限にとどめている	ポータブルトイレを併用しながら適切な誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行うと共に、水分量の把握、起床時の牛乳の飲用、食事内での乳製品の摂取等に対応している。運動不足になりがちな冬期間は、ホーム内での運動を多く取りいれたりして対応している		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴は行っていないが、利用者がゆっくり入浴できるようケアしている。入浴嫌いの利用者へはその都度タイミングを見ながら声掛けをし入浴に努めている。足の冷えがある利用者は就寝前に足浴を行っている	状況に臨機応変に対応しながら週2~3回入浴しています。夏はシャワーを適宜使用し、清潔保持できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は就寝時間の対応ではなく、利用者が眠れない時には、リビングでテレビを見たり会話する等対応している		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時や定期薬の処方時にかかりつけ薬局の薬剤師より説明を受け、職員へも申し送り等で周知している。また気になる事や心配な事については相談に応じてもらっている		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴にあわせて個々ができる事、できそうなことを見つけて役割をもっていただき、生活意欲につながるようケアに努めている		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭や園周辺を散歩して地域住民とコミュニケーションが取れるようにしている。利用者が墓参りや法事等を希望する時には家族に電話しお願いしている。また個別の外出やレク等で支援している	地域行事への参加やドライブ、梨狩りを企画して外出が楽しいものとなるよう支援しています。日課の散歩をしたり畑の草取り等で外気浴が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得て買い物時にはお金の入った財布を持って買い物を楽しんでいる		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話交流等利用者に応じた支援を行っている		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、季節を取り入れた花や装飾品、写真を飾っている。また利用者の創作作品もかざり楽しめるように工夫している	利用者の写真や似顔絵を使用した作品が壁面を飾り、職員のアイデアが活かされた空間づくりをしています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが多く設置され、玄関前には日光浴が出来る工夫をしている		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家庭で使用したものを自由に持ち込まれている。思い出の品や写真、個人の創作品等も飾られている	家族が居室づくりに協力している方、几帳面に自分で管理している方等、それぞれの状態や個性に合わせた環境づくりが行われています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はバリアフリーの認定を受けている		